

塚山古墳群は、塚山古墳をはじめとした古墳群で、5世紀後半から6世紀初頭にかけてこの地域を支配した一族の墓所と考えられます。現在残っているのは、前方後円墳3基と円墳1基ですが、かつては数多くの円墳や埴輪棺（埴輪を棺にして死者を埋葬した墓）が存在していました。

つかやまこふん  
塚山古墳



塚山古墳は塚山古墳群の主墳です。3基（塚山古墳、塚山西古墳、塚山南古墳）の前方後円墳の中では最初につくられたと考えられています。全長は98mで墳丘は三段に築かれており、葺石が葺かれています。また、くびれ部南側に作り出しと呼ばれる台形の突出した部分をもちます。

古墳のまわりには盾形の周溝が廻っており、その外側に小規模な円墳や埴輪棺も発見されています。

[県指定史跡]

つかやまにしこふん  
塚山西古墳



塚山西古墳は、前方部の短い帆立貝式前方後円墳で、前方部を南南東に向けて築かれており、全長は63mです。古墳の周りをめぐる周溝の中から、埴輪や土器がたくさん出土しています。

周溝は、塚山古墳を避けるように掘られているので、この古墳は塚山古墳の後に築かれたことがわかります。

[県指定史跡]

つかやまみなみこふん  
塚山南古墳



塚山南古墳は、前方部を南に向けて築かれた全長58mの帆立貝式前方後円墳です。塚山西古墳と同じく、周溝の中から、埴輪や土器がたくさん出土しています。

この古墳は塚山西古墳の後に築かれており、3基の前方後円墳の中では最後に築かれたものです。

[県指定史跡]

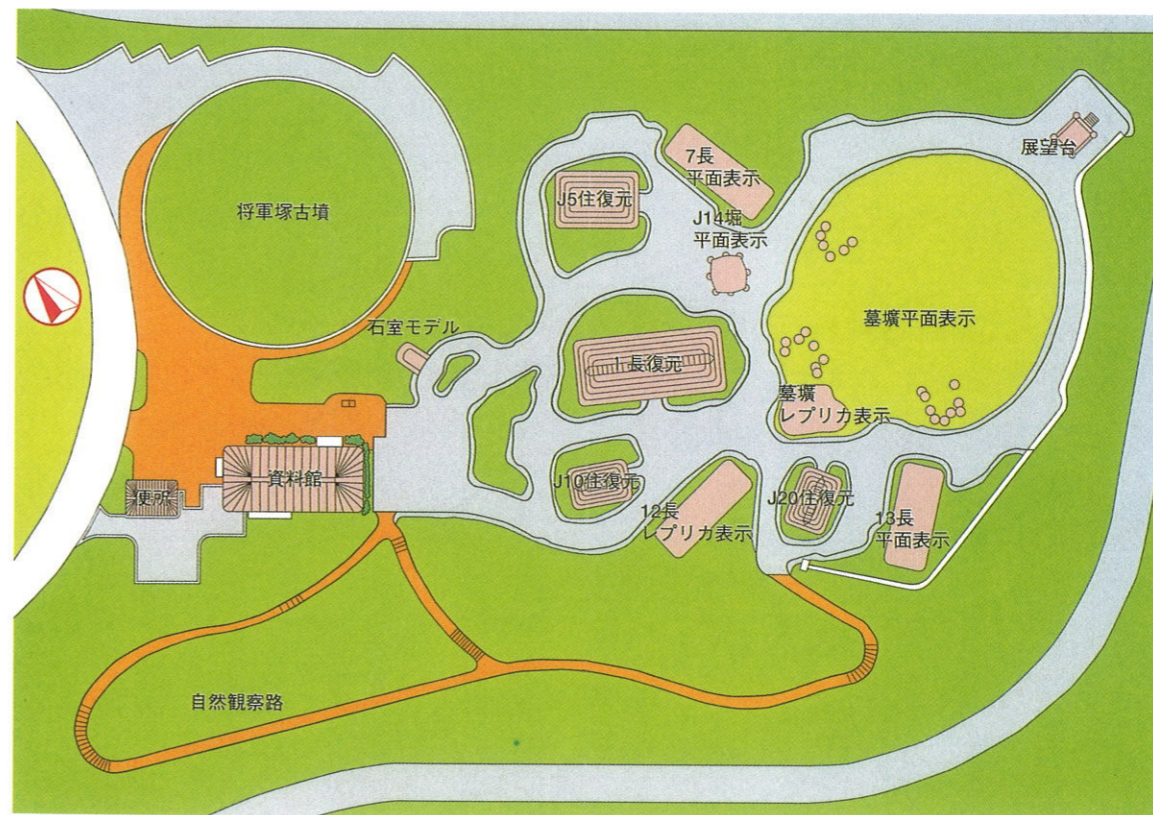
根古谷台遺跡は、縄文時代前期の大規模な集落跡です。広場の中心部に多数の墓壇（墓穴）があり、その周囲を特殊な建物跡が取り囲んでいます。中でも15棟確認された長方形大型建物は、巨大で規格性があることなど、この時期のものとしては他に例のないものでした。広場内の数多くの墓壇のうち、重要文化財に指定された装身具や石器が出土した7基は、当時の埋葬状況などを明らかにする上で貴重な資料となっています。

墓域周辺に特殊な構造と大きさを持つ建物があるとともに、日常品の出土が少ないことなどから、葬送儀礼などの集団祭祀を行った可能性も考えられます。なお、現在は「うつのみや遺跡の広場」として整備され、資料館や4棟の復元建物が置かれています。また、園内にはニッコウキスゲの群落があり、5月に美しい花を咲かせます。

[国指定史跡]



復元建物



うつのみや遺跡の広場配置図